

四一、福島縣立相馬中學校（中村驛の西凡二十町）

相馬郡中村町に在り明治三十一年の設立にして生徒
定員六百人なり



四二、原釜海水浴場

〔中村縣の東凡一里半〕

相馬郡松ヶ江村大字原釜に在り松川浦の勝を控へ海水清く海波高からず東海第一の浴場と稱せらる堂廊に座して一望すれば水天粍の間遙に金華山を眺め幾多の島嶼相連り帆影を吐き漁舟を呑み眺望甚た佳なり





四四、野馬追

(原町驛の東凡八町)

相馬郡原の町野馬追原に於て行はる數千の歩騎を率ゐる將士皆戎裝武伍凜然進退一に戰陣に準ず世に島津氏傳ふる所の犬追物と並稱して天下の偉觀と爲す蓋し其由來する所相馬氏の先平將門騎手を、小金原に集め堀馬を驅逐し以て戎事を習はしめたるに起り要は祀に寓し武を講するにありしと云ふ



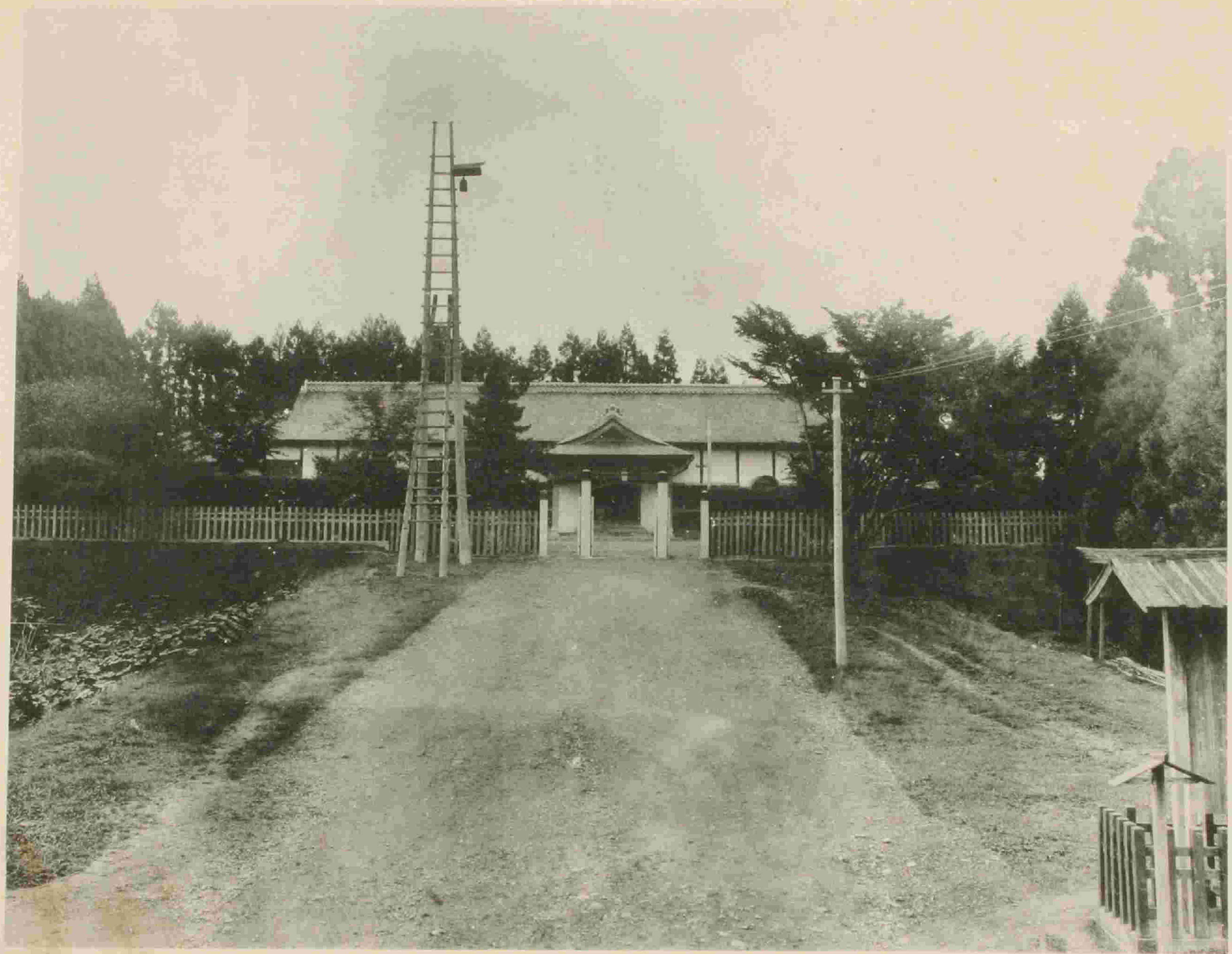
追馬野馬相

四五、雙葉郡役所

(富岡驛の西北凡十町)

雙葉郡富岡町に在り

東宮殿下東北行啓に際し畏くも其御旅館と定めらる



四六、平 町

戸數二千六百四十、人口一萬三千四百有餘、郡役所、稅務署、警察署、監獄分監、地方裁判所支部、區裁判所、縣立中學校等あり安藤氏の城下にして城址今僅かに存す近時炭礦の採掘、工場の設置等頗る盛にして縣下第一の工業地を以て稱せらる



四七、福島縣立盤城中學校

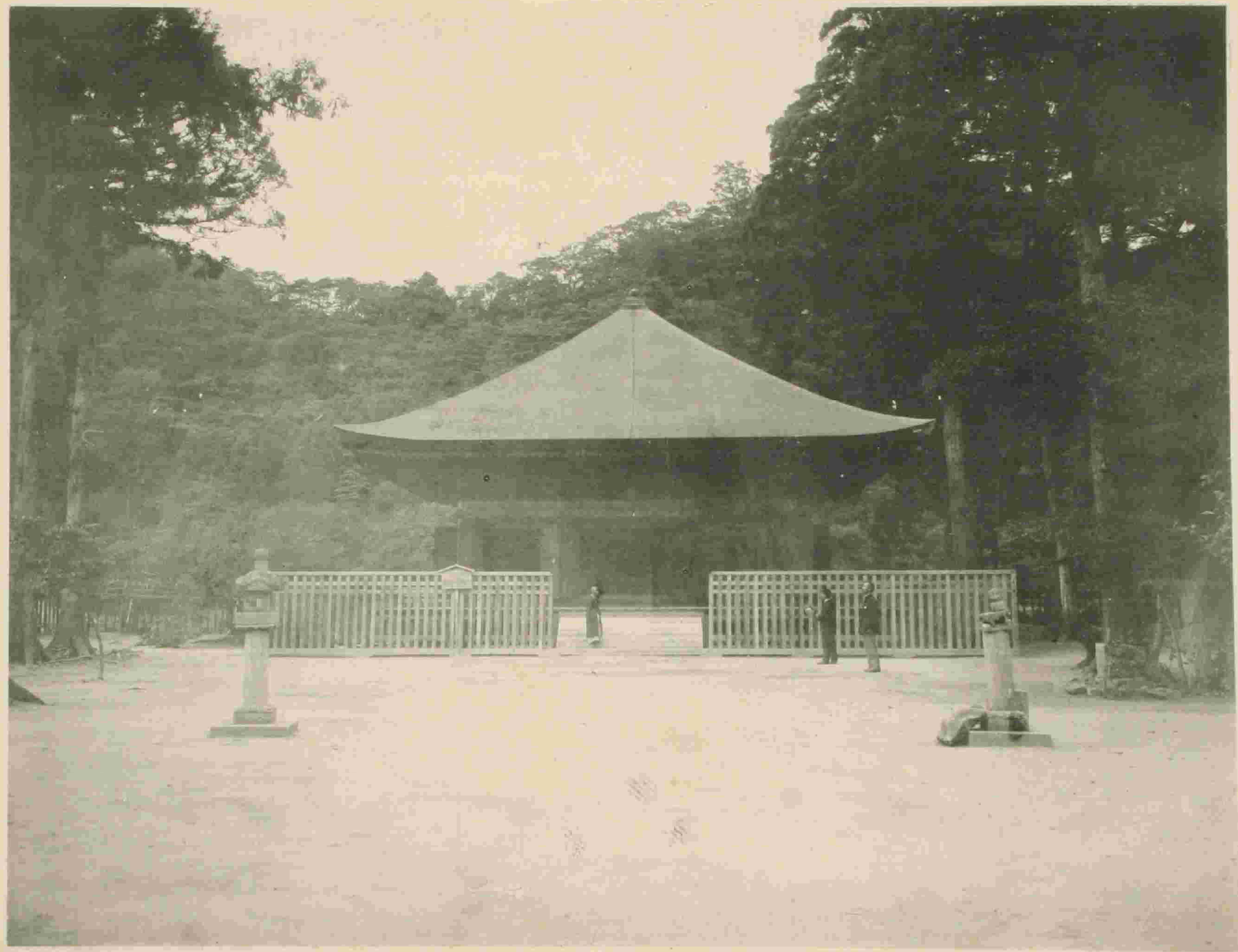
石城郡平町に在り元町立學校組合分校たりしか明治
三十一年縣立となす生徒定員六百人なり



四八、白水阿彌陀堂

(平野の西凡二里)

石城郡内郷村大字白水に在り堂宇縦横七間中に本尊
佛彌陀、侍佛觀音、勢至、多門、持國の五軀を安置す佛工運
慶の作なりと傳ふ堂宇は明治三十五年七月特別保護
建造物に指定せらる安置する所の佛鉢彌陀、觀音、勢至
の三軀は明治三十六年四月國寶に指定せらる



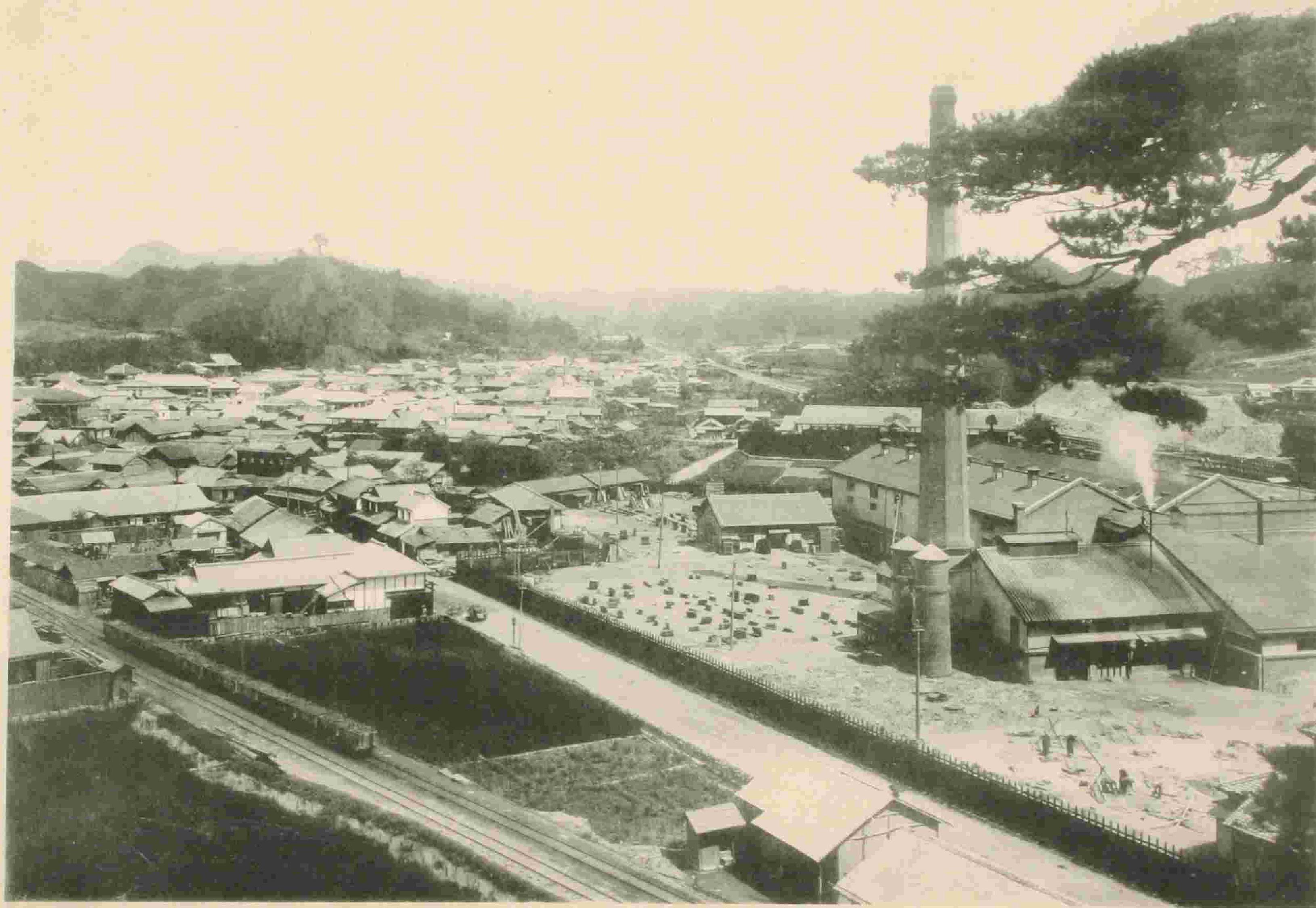
四九、盤城炭礦株式會社内郷炭坑

磐南の地石炭を産する年に百十餘萬噸就中盤城炭礦株式會社を以て最と爲す明治十七年の創立に係り甚た盛なりと云ふ



五〇、湯本温泉

石城郡湯本村に在り舊佐波古温泉是れなり人家貳百餘軒を連ね一小都色を成す旅舎皆浴槽を設け以て客を延く近時品川耐火煉瓦製造所を設く建築の壯大なる一見其の盛況を想はしむ



五一、福島縣水産試験所

(湯本驛の東南凡二里十三町)

石城郡小名濱町に在り明治三十五年の設立にして水産物の製造並に池中養魚を行ひ以て當業者に模範を示し近年更に西洋形帆船を新造し漁夫の練習と遠洋漁業に關する試験とを行ひ以て水産業の改良發達に資する所あり



五二、勿來關址

(勿來驛の西凡二十五町)

石城郡窪田村大字關田常陸磐城の國境に在り關は元明
帝和同年間置く所なりと云ふ鎮守府將軍源義家東征此
地を過きり櫻花の詠を以て其名世に顯はる

千歲集

源義家

ふく風をなことの關とおもへども

道もせにちる山さくらかな

